

Forward CPEC-UH



第006号

■編集：
兵庫県立大学淡路緑環境キャンパス
(緑環境景観マネジメント研究科)
MYU-UH 大学間連携事業推進室

大学間連携共同教育推進事業では、地域のステークホルダーであるさまざまな機関（とりわけ地元市町村）とも連携を進め、実践的教育や人材輩出、地域情報の集積を行うことによって、より体系的に大学機能を高め、地域課題解決の原動力となることを目指しています。

すでに連携協定を結んでいる機関を、前年度2月には宮城県、大崎市、白石市、蔵王町、宮城蔵王観光を訪問しましたが、今年度になって、6月に沿岸部連携先の気仙沼市、南三陸町を訪ねました。

■宮城県沿岸部の連携先・気仙沼市、南三陸町を訪ねて

6月7日(金)に大学間連携担当の高坂副学長、産学連携担当の太田副学長と藤原事務局長、小林連携室長の4人で、宮城大学の森山副学長、蜂谷副参事(学務課)のご案内の元、連携先の宮城県沿岸部の気仙沼市と南三陸町を訪問しました。

気仙沼市では震災復興・企画課の菅野政策・調整係長に迎えていただき、峯浦副市長と面談いたしました。

南三陸町では、阿部企画課長、佐藤課長補佐、松岡主幹、大森主幹と意見交換しました。特に復興公営住宅における今後のコミュニティ形成課題などに頭を痛めておられました。

いずれの市町においても、震災被災地でのコミュニティ・プランナーの不足、特に地域の担い手であるステークホルダーを支えていく人材不足を訴えられ、今すぐにも現地に必要であること、今後もそうした役割を果たすことのできる人材への期待を述べられ、この事業の重要性を改めて認識しました。

気仙沼市でも南三陸町でも、瓦礫の撤去・整理は進展していても、依然として中心市街地のみならず、至る所で街の再建は未だしの状況でした。

7日の夜は石巻市ので宿泊し、翌8日(土)には、日和山から石巻中心部、女川町、雄勝半島、大川小学校などを視察し、夕方宮城大学太白キャンパスで西垣学長と面談した後、帰路につきました。(小林郁雄)



■気仙沼市役所、左から3人目が峯浦副市長



■南三陸町役場、左側が企画課の方々



■宮城県女川町中心部、津波で転倒したビルが残っている

■グリーンデザイン班の活動報告

(平成24年度活動報告書より)

嶽山 洋志(緑環境景観マネジメント研究科講師・CPECグリーンデザイン班担当)

- ・実践期間：3月7日～10日
- ・場所：石巻市北上地区
- ・参加学生：3名
- ・手法と対象者：対面型ヒアリング(橋浦小学校関係2名、仮設住宅の住民6名、まちづくり委員会委員1名)、ワークショップによる聞き取り調査(地元住民等13名)、プレーパークを通じた子どもたちの遊び場調査(子ども15名)、計37名
- ・調査内容：北上地区の遊びについて

1. はじめに

「遊び」は大多数の市民が人生において経験し、身近な行為として認知されているものです。地域のコミュニティづくりにおいては「遊び」のような誰もが思いを重ねやすいテーマを設定し、多様な世代の参加を促すことが有効ではないかとの考えから、今回は「遊び」をテーマにしたヒアリングやプレーパークを通じて、コミュニティ(子ども、親世代、高齢者の各世代)が抱くまちの魅力や課題を整理することとしました。なお、得られた成果は平成25年度にガイドブックとしてまとめ、住民の方々と共有する予定です。

2. 活動概要

2.1 活動フィールド

今回の活動フィールドは宮城県石巻市北上地区です。北上地区は農業・漁業・林業の第1次産業を中心とした地域であり石巻地区への就労依存度も高くなっています。人口は震災前は3,969人(平成21年10月1日時点)でありましたが震災後は少なくとも2割は地区を離れる見込みとのこと(http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/miyagi/feature/tohoku1362438975719_02/news/20130310-0YT8T00099.htm参照)。津波による被害は石巻市北上総合支所、公民館、2つの小学校、2つの漁港施設、河北消防署北上出張所など、地域内のほとんどの公共施設が壊滅的な被害を受けました。このため、北上地区を単に震災前の状態へ戻すのではなく、居住・商業・観光・伝統産業の核となる地区を地理的・歴史的・文化的要因などを踏まえ、それぞれの地区に即した産業を集積することにより、人口減少・超高齢化という現状においても持続可能な復興地域づくりを推進しています。

2.2 活動概要

以上のような北上地区で3月8日(金)と9日(土)に以下のような活動を展開しました。まず8日の午前

に橋浦小学校長先生と6年生担任の先生へのヒアリングを行い、内容は「震災前後の児童の生活環境の変化について」「震災後の復興まちづくりについて」としました。午後は仮設にっこりサンパーク団地の集会室にて地域の60代女性6名に対し当時行っていた遊びについて伺うことができました。

さらにまちづくり協議会委員にもヒアリングを行い、まちづくりの課題について市民の生の声を聞くことができました。その日の夜には「山学校」などの地域の遊びに関する聞き取り調査も実施され14名の参加を得ることができました。

次の日の3月9日は1日中橋浦小学校の裏山で北上プレーパーク有志の会と共催によるプレーパークを実施、子どもたちの遊び場に対する思いを知ることができました。



■橋浦小学校の先生への聞き取り調査



■仮設にっこりサンパーク団地

3. 宮城県石巻市における遊びをテーマにした聞き取り調査活動を通じたCP像の検討

以上のような取り組みを通じてCPには以下の3つの力が求められると感じました。



■山学校に対する聞き取り調査（親世代）



■橋浦小学校の裏山でのプレーパーク

3.1. 多くの人が思いを重ねやすいテーマに関する技術の習得

「自然遊び」や「花壇づくり」など、誰もが一度は経験したことがある活動は多くの生活者が思いを重ねやすく参加がしやすいと思われます。そういった活動に関する専門性を磨く必要がコミュニティに関わる専門家には必要だと感じました。

3.2. 地域に入る技術、地域と話す技術の習得

地域に入る技術は何をテーマにするかが重要でそれに関する専門性を磨くことが重要です。また「学校や自治会などコミュニティの核になる主体や、地域活動を展開している主体との連携」は重要で、今回のようなフィールドワークはコミュニティの構造を把握する、また生活者と信頼関係を構築していくうえでも重要と考えます。さらに地域と話す技術として「意見を引き

出す力」と「意見をまとめる力」も重要と感じました。

3.3. デザインで解決する技術の習得

聞き取り調査が研究のためだけに終わっては意味がありません。それをどう社会に還元していくかが求められ、そこにデザインが有効と感じています。ここで言うデザインとはランドスケープデザインだけではありません。プロダクトデザイン（ガイドブックや展示物など）やソーシャルデザイン（組織など）など多様な領域を含むと考えられます。デザインとは市民の意見など様々な情報を別のカタチに表現し社会に還元するものと考えます。今回のプロジェクトでも最後はガイドブックというカタチで社会に還元することを検討していますが、そういったデザインする力（意見を別の形に変換する力）が必要と考えています。

■評価システム班の活動報告

（平成24年度活動報告書より）

山本 聡 教授

（緑環境景観マネジメント研究科講師・CPECグリーンデザイン班評価システム検討グループ担当）

ステークホルダーへの対面型ヒアリングを通じた CP（コミュニティプランナー）像の検討

- ・対象
造園系コンサルタント、まちづくり系コンサルタント、教育関係（大学）の責任者・担当者
- ・ヒアリング期間：1月～3月
- ・ヒアリング内容：
コミュニティプランナーの人材像、求められる能力

1. 抽出された人材像は「地域のステークホルダーや住民が、自ら様々な活動を行えるようにアドバイスできる外部の専門家」です。具体的には、計画から施工、維持管理などの知識・技術を備え、それに加えてその空間や地域で行われる活動手法をどう使うかといった、ソフト面での提案を行える専門家というイメージがあげられました。
2. そのために求められる能力は「問題の把握能力や調整・マッチング力、対価等の正当な判断力」であり、地域のことを理解して住民の意見を吸い上げる能力が必要とされました。但し、全ての知識・技術を一個人が持つ場合もありますが、学部レベルでは関連する知識・技術のありか（それぞれの専門家）を知っていることが必要であり、それらの情報をつなぐことができることが特に重要とされました。
3. そのような人材育成のイメージとして、OJT方式による実戦経験の必要性、学部・大学院での段階的な育成システムの構築も検討課題とされました。

【これからの予定】

●第3回宮城大合同カリキュラム検討会議

日時・8月28日(水)

場所・兵庫県立大学 淡路緑景観キャンパス

宮城大学 大和キャンパス

(Google+ハングアウトによる遠隔会議)

- ・9月17日の両校協議会での承認に向けて、次年試行予定のカリキュラムについての協議を行う。

●宮城大学・学生交流会

日時・9月2日(月)~4日(水)

場所・神戸市、淡路島、兵庫県立大学淡路緑景観キャンパスなど

- ・行程など詳細は右欄

●第4回両校協議会

日時・9月17日(火曜) 13:00~12:00

場所・兵庫県立大学神戸商科キャンパス本部棟
2階中会議室

【連携事業推進室から】

●兵庫県立大学の9/3交流会参加募集

宮城大学・兵庫県立大学連携共同教育推進事業「コミュニティ・プランナー育成のための実践的教育課程の構築」



宮城大学合同交流・見学会の開催のお知らせ

~宮城大学の学生とともに 淡路島の復興まちづくりを学ぼう!~

兵庫県立大学では宮城大学と共同でコミュニティプランナー育成のための教育プログラムの立ち上げを検討中です。この事業の一環として、両大学合同の交流・見学会を企画しました。今回は宮城大学の学生が神戸・淡路島を訪ねて来られます。この機会に合わせて本学学生もいっしょに、淡路島における阪神・淡路大震災からの復興まちづくりを中心とした取り組みを見学しましょう。

○日時：9月3日(火曜日) 9:00~20:30

○集合場所・時間：淡路IC 9:00
(高速バス・学園都市 8:30~高速舞子 8:45~淡路IC 8:52)

○解散場所・時間：淡路IC 20:30
(高速バス 淡路IC 20:39~高速舞子 20:46~学園都市 20:56)

○内容：宮城大学学生といっしょに下記に下記のコースの見学等を行います。

- ①北淡震災記念公園・断層記念館見学
- ②旧北淡町富島地区復興まちづくりの説明と意見交換
- ③のじまスコーラで昼食
- ④チャレンジファーム農場の説明
- ⑤兵庫県立淡路景観園芸学校(兵庫県立淡路緑景観キャンパス)の学校案内
- ⑥下記より1つ選択
 - a. 淡路景観園芸学校のフィールド散策・研究室案内
 - b. 園芸療法プログラム体験
 - c. 学生ボランティア活動ワークショップ
 - d. 南あわじ市稲良のまちづくりに関する情報交換会議(通称交換会)あり
- ⑦交流会(立食パーティー)



○費用：昼食代、交流会費として3000~4000円
淡路IC(集合場所)までの交通費(学園都市から450円、舞子から400円)については、上記とは別途に各自ご用意ください。

○募集定員：先着20名(各キャンパス5名程度)

○申込期間：受付開始7月24日(水)~7月31日(水)

○申込先：兵庫県立大学 淡路緑景観キャンパス 大学間連携事業推進室
yoshiko_ose@awaji.ac.jp(担当 大瀬)

○申込方法：本文に、氏名・所属・学籍番号・電話番号・メールアドレス 内容⑥の参加希望プログラム記号(a~d)を明記のうえメールにてお申し込みください。

なお、参加者は事後レポートの提出が必要です。詳細については、参加者に別途連絡いたします。問い合わせ先は上記メールアドレスもしくは、0799-82-3126まで。



●宮城大学・兵庫県立大学/学生交流会日程

9月2日月曜

□集合 仙台空港 8時20分

□仙台空港0915→ピーチ航空MM132→1055 関西空港

□関西空港→人と防災未来センター

●人と防災未来センターにて、阪神・淡路大震災記念施設での震災と復興の概要把握、施設見学(語り部の話、映像と展示)

●グループに分かれて交流プログラム

①NPO 法人ウィズ・ネイチャー(長田区)代表のお話

②灘区六甲道駅北震災復興土地区画整理地区「風の郷公園、風の家」の見学・地区ステークホルダー(公園部会長)のお話、意見交換

□神戸再集合→宿舎(海若の宿・淡路市)

9月3日火曜

●北淡震災記念公園・断層記念館 淡路での震災と復興の概要把握、施設見学

●のじまスコーラ(旧小学校校舎活用施設)で昼食

●淡路景観園芸学校(兵庫県立大学・淡路緑景観キャンパス)見学、交流

学校案内、交流、園芸療法演習ほか

●学内レストラン「風の詩」で立食形式の交流会

□淡路景観園芸学校→宿舎(海若の宿・淡路市)

9月4日水曜

□宿舎→神戸市内、グループに分かれて見学(昼食各自)

●神戸市北野地区(異人館街)の町並み見学

●神戸ハーブ園

□神戸再集合→関西空港

□関西空港1545→ピーチ航空MM137→1705 仙台空港
解散

兵庫県立大学淡路緑景観キャンパス(緑環境景観マネジメント研究科) 大学間連携事業推進室
UNIVERSITY of HYOGO Promotion Office for Inter-University Collaborative Program
〒656-1726 兵庫県淡路市野島常盤954-2 Phone & Facsimile 0799-82-3126
Hyogo-ken Awaji-shi Nojimatokiwa 954-2
E-mail suishinshitsu@awaji.ac.jp